

## ファースト／ラストワンマイルのソリューション

## A Solution for the First / Last One Mile

閔井 清  
URUI Kiyoshi

21世紀最初に訪れる社会は情報ネットワーク社会とされています。情報ネットワーク社会はソフトウェアが主役となり、流通や企業の仕組みなど社会基盤の構造を大きく変えてしまう可能性があります。ネットワーク社会への移行は、特に米国が進んでおり、通信インフラの整備だけでなく、EC(電子商取引)、企業運営、教育、行政などの情報開示とアプリケーションの開発や運用などが先行しています。日本では、個人向けネットワークサービスと言えば、まだホームページの閲覧や電子メールの送受信が中心ですが、今後、音楽、映像、ゲームなどのエンターテインメントや教育、趣味などに幅広く利用されると予想されています。

本格的な情報ネットワーク社会を構築するためには、情報を運ぶネットワークの幹や枝を太くしていく必要があります。幹の部分である基幹回線は、光技術の発達と投資効果も高いことから新規参入も多く、比較的容易に敷設されています。枝の部分であるアクセス回線(ユーザーの視点から見てファーストワンマイル/通信事業者の視点から見てラストワンマイルと呼ばれている)は、敷設に資金と時間が掛かるため新規参入が難しいとされています。この方式には、光ファイバを敷設するFTTC(Fiber To The Curb)/FTTH(Fiber To The Home)、同軸によるCATV(ケーブルテレビ)、既設の銅線に高速モデムを接続するxDSL(Digital Subscriber Loop)、衛星通信、それに準ミリ波帯やミリ波帯周波数を利用する加入者系無線アクセスシステムなどがあります。なかでも敷設工事費が安く、短期間で敷設可能な加入者系無線アクセスシステムが注目されています。この方式は昨年12月、郵政省から導入に関する基本方針が公表され、今後本格化するものと期待されています。

当社は早い時点から、加入者系無線アクセスシステムがファースト／ラストワンマイルを比較的簡単に、低コスト、短期間で実現する有効な手段と考え、長年培ってきた無線技術、準ミリ波高周波デバイス技術、米国タイムワーナー社とのCATVシステム構築技術、ケーブルモデム技術などの実績をベースに、開発を進めてまいりました。来るネットワーク時代には、コンテンツをいかに早く、安く提供できる仕組みを構築するかが決め手になります。当社は機器提供からシステムインテグレーションまで、ミニマムトータルコストの実現を目指します。